六八六番

このころは　千年や行きも　過ぎぬると　我や
然思ふ　見まく欲りかも

六八七番

愛しと　我が思ふ心　早川の　塞きに塞くとも
なほや崩えなむ

六八八番

青山を　横ぎる雲の　いちしろく　我と笑まして
人に知らゆな

六八九番

海山も　隔たらなくに　なにしかも　目言をだに
も　ここだ乏しき